No.3　2006.4.

砂丘

発行：独立行政法人　国立病院機構
鳥取医療センター
発行責任者：柏木　徹

理念

1. 人類愛に基づく、質の高い医療を提供する。
2. 患者本位の医療体制を確立し、充分な説明と同意の下に、自由意志を尊重し、人としての尊厳を守る。
3. あらゆる情報の公開に努め、医療人としての自己研讃に努める。

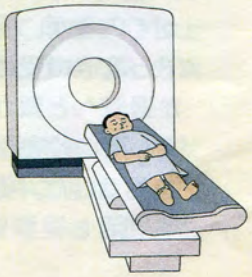
脳ドックのご案内

検査を受けて、
脳疾患の早期発見と
予防をしましょう

安心のいきいき生活をおくりましょう

【簡易脳ドックとは】

日本脳ドック学会ガイドラインでは、血液検査・尿検査・心電図・胸部写真などの検査を行わず、MRIを使用し画像診断のみを行った場合は脳ドックと区別する「簡易脳ドック」の名称をつけています。
撮像を簡易的に行うものではなく、MRIにより脳内部の状態と血管を撮影して脳疾患の有無を診断します。



お申し込み方法

受診のお申し込みは、全て予約制です。
予約は、受付窓口に直接お越しいただくか、電話でお問い合わせ下さい。
料金は　脳ドック　31,300円　　簡易ドック　21,000円　です。

「退院促進プログラム」について①

精神科医長　高　田　耕　吉

精神症状は安定したものの生活機能障害が固定化し、このため精神科病棟に長期入院しておられる患者様をどのようにして地域生活に移行させるか？！精神科薬物療法が一般化され、その効果も限界もある程度明らかになってきた20年前頃から、このことは精神科医療では解決すべき課題となっていました。この20年間、精神科リハビリテーションとして全国に精神科デイケアが広がりました。病棟では、これまでの牧歌的な"生活療法"に代わって、結果に裏付けられ体系化された精神科作業療法が取り入れられました。技法面では、社会技能訓練(SST)が普及し、技能も向上し、いまではエキスパートのみが行うような特別な治療ではなくなってきています。地域の社会福祉資源もゆっくりではありますが次第に充実しつつあり、鳥取県東部では小規模作業所が数カ所開設され、地域生活支援センターが設けられました。さらに、2000年以降に登場した副作用の少ない新世代の抗精神病薬により、在宅生活を送る上で支障になっていた認知機能障害、生活機能障害が大幅に改善されるようになってきました。

しかし、です。「比較的早期に退院できる人は退院できるが、３年で退院できなかった人は入院し続けている」現状には残念ながら大きな変化はみられません。入院日数は１年前後とそれ以降の二峰化し、20年前、40歳代だった開放病棟の入院平均年齢は今や60歳代になっています。

平成18年度から計画している退院促進プログラムは、さまざまな理由で「退院しそびれた」患者様方に焦点をしぼり、集中的な心理教育プログラムを体験してもらい、地域生活への安心した移行を目指していく治療的な実践です。具体的には、平成18年５月から週１回１時間程度のプログラムを17回、地域へ出ての実践プログラムを７回予定しています。今年度は12病棟、13病棟から「退院したい！！」と思っている患者様を募り、小集団での学習会を行っていきます。

学習を通して知る現実は患者様に心の痛みをもたらすかもしれません。大変遅れてしまった社会参加ですが、このプログラムに関わるスタッフは患者様とその痛みを共有したいと思っています。だから、密かな決意を込めて、「12病棟・13病棟は社会復帰病棟です。われわれは、地域生活が可能な患者さまの退院を治療目標とし、地域生活への準備をお手伝いしていきます」と謳いたいと思います。

退院準備プログラム

	表題	内容
セッション１	プログラムへの導入	スタッフ紹介
セッション２	地域生活のオリエンテーション(その1)	PSWから福祉資源、制度の説明
実践編１	居住施設を見に行ってみよう	サマーハウス
セッション３	慢性の精神障害の症状と薬の効果	再発防止の方法
セッション４	退院準備	退院できる状態のイメージ
セッション５	地域生活のオリエンテーション(その2)	退院した患者さんを囲んで
実践編２	役所を見に行ってみよう	市役所
実践編３	通所施設を見に行ってみよう	DC、サマーハウス
セッション６	毎日のスケジュールの立て方	退院3ヶ月をイメージ
セッション７	食生活の管理	自炊しなくても生きていける
実践編４	自分で食事を準備してみよう	湖山近辺のスーパー、弁当屋
セッション８	金銭の管理	現実的な出納管理
実践編５	金銭管理の練習をしてみよう	湖山近辺の銀行、郵便局、ATM
セッション９	薬は再発を予防する	自己評価表の使い方
セッション10	薬の効果を評価する	主治医へ訊いてみよう
セッション11	ストレスへの対処法	退院後のストレス
実践編６	近くの公共施設に行ってみよう	図書館
セッション12	薬の問題点を解決する	副作用を自己チェック
セッション13	薬の副作用を解決する	副作用の相談方法
セッション14	再発の注意サインを見きわめる	自分自身の注意サイン
セッション15	注意サインを監視する	援助者をみつける
実践編７	生活必需品を準備してみよう	湖山近辺のスーパー、100円ショップ
セッション16	緊急時の対応策を立てる。緊急時の対応策を地域で実践する	緊急時のサバイバル
セッション17	全体のまとめと終了式	スタッフ全員でお祝い

「退院促進プログラム」について②

12病棟　岡　野　加代子

当院では、厚生労働省主催の退院促進研究に参加することが決定し、３月２日、３日の２日間、「キックオフミーティング」に参加した。退院準備プログラム（①住居開拓、②地域生活の能力向上、③疾病自己管理技能の向上、④地域生活支援体制を包括的に提供するプログラム）の説明を受け、実際に行われているセッションを見学した。現在、社会復帰病棟として一人でも多くの患者を地域へ戻すよう関わっているが、長期在院患者となると患者の意欲も低下し家族の受け入れも困難なケースが多く、なかなか退院へと繋がらない現状があった。社会復帰病棟としての役割を今後どのように果たして行くべきか悩んでいた。退院準備プログラムでは、退院後の地域生活も視野に入れた精神科入院治療の質の向上、長期在院患者の退院促進の方法と技術の習得が計れるとの事で、明るい兆しが見えてきたと感じた。

現在当院では、プログラムの開始に向けてスタッフのトレーニングを行っている。患者の反応に不安もあるが、患者の潜在能力を引き出せる、患者同士の自己成長の場となる、患者とスタッフの信頼関係がより築ける、家族の意識改革に繋がる、更に私たちのスキルアップや成長に繋がるなどのプラス面の期待も次々と浮かび、楽しみでもある。地域の特性もあり今後様々な壁が想像されるが、退院促進に向けて何が必要か、どのような事を患者が望んでいるのかを明確にし、社会復帰病棟としての機能が更に発揮できるよう、スタッフ一丸となって頑張って行きたいと思う。

新人オリエンテーションを実施して

４月３日から５日間にわたり新採用者研修を実施した。対象は配置換えや新採用により新しく当院の職員となった人である。
柏木院長より辞令を受けオリエンテーションに続き研修が始まった。
ＮＨＯ国立病院機構の職員としての概要をベースに鳥取医療センターのオリジナリティー溢れるカリキュラムを計画した。

それぞれの研修担当者には新採用者に求められる基本的な知識と、チーム医療としての役割を話してもらった。

看護部の新採用者は１１人であり内３人は男性である。全員が当院で精神看護、重心看護、一般看護をやりたいと看護観に燃えて集まった若者である。

看護教育についてはＮＨＯ国立病院機構が示しているＡＣＴＹナース看護職員能力開発プログラムを紹介しそれをリンクさせたものが当院の教育計画であることを説明した。そしてプリセプターはじめ、屋根瓦方式でしっかりとチームでサポートする。決して新人を一人にはさせないことを伝えることで少しは安心できたのではないかと思う。

実践面においては急変時に対応できるようにインストラクターの資格を持つ看護師長を中心にＡＣＬＳの演習を取り入れた。（写真１）緊迫した雰囲気の中で研修生一人一人が大きな声を出し、役割を演じていたのが印象的であった。

明日からはそれぞれの病棟で看護師としての本番がスタートする。

一緒に研修を受けた11名が、困難に出会った時、支えあい、励ましあう仲間となることを期待している。

私達は新人看護師が患者さんから厚い信頼を受ける看護師として一人立ちできるまで大切に育てていきたい。

副看護部長　難　波　富　子

医療社会事業専門員
福安志津（左）
三島絵里（右）

地　域　連　携

地域連携室長　金　藤　大　三

３月13日鳥取医療センターの医師と近隣の診療所、病院の医師との懇談会が近隣から28名の医師、当病院より17名の医師の参加を得て開催され盛会に終わりました。

鳥取医療センターは、政策医療（その時代において、国の医療政策として国立医療機関が担うべき医療）を担うことを第一使命とし、さらに地域に根ざした医療並びに、患者さんの目線に立った医療の提供を目指す地域とともに歩む地域の病院としての役割も担っていることを認識して、地域の病院や地元の診療所など医療機関や福祉施設との連携強化によって、患者さんに納得のいく医療を提供することに努めています。

入院患者の在宅支援を促進し、地域保健・医療・福祉・介護連携支援体制のネットワークにより患者さんが地域で安心して療養できるように当院もその一端を担うつもりです。

診療所と病院の連携の重要性が叫ばれています。かかりつけ医の先生方との役割分担を活用した病診連携は患者さんにとっても有用と考えており、当院では精密検査、入院加療などの専門診療を行い、検査、診断、治療が一段落した患者さんや病状安定期の患者さんは、経過観察を患者さんにとって便利のよい、ご紹介医またはご自宅近くのかかりつけ医の先生のもとにご紹介します。

又講習会や研修会の開催を通して多くの地域の先生方や看護師、介護士、保健師の方々と一層の連携強化に努めて、かつ適確な情報発信ができるように努めています。

患者相談窓口（医療相談室）では３人の医療ソーシャルワーカーが医療・保健等に関する患者さんの相談を受けています。医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）は、入院して治療、療養中の患者・家族、および通院している患者・家族、さらにはこれから病院にかかろうとする方々が安心して診療を受けられるように、治療や療養の妨げになる生活上の不安、心配など経済的、心理的、社会的問題を共に考え、解決への援助をするとともに、他の医療スタッフと共に退院の計画を助け地域連携を促がすことを社会福祉の立場から担当する専門職です。医療相談室では医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）が、地域の保健・医療・福祉・介護機関等との連携を密にして、患者さんお一人ごとに親身になってご相談に応じて参ります。ただ地域連携室としてはまだ立ち上げておりませんので患者紹介、受診の予約などの業務は行っておりません。

私たちはこの様な病診連携、病院と診療所、福祉施設との役割分担によって、地域の中で患者さんと良好な関係を保ったよりよい医療環境を作り得るものと考えています。

外来診療科担当医表

独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター　　平成18年４月１日現在

			月	火	水	木	金
内科				岩田		塩	
				小西		小西	
内科（検査）					岩田		岩田
精神科	初診	診察室６	坂本	土井	松島	林	高田
		診察室７	池成	池成	坂本	土井／岡田	林
	再診	診察室１	高田	松島	土井	高田	土井
		診察室２	松島	坂本	川口	助川	坂本
		診察室３	池成	林	林	池成	池成
		診察室７					岡田
		診察室８	岩田	岩田	岩田	岩田	岩田
神経内科		１	下田	岡田	井上	金藤	土居
		２	後藤	下田	金藤	土居	井上
小児科		１	中野	小松	赤星	中野	赤星
専門外来	睡眠外来	精神科５	坂本		高田		高田
	神経内科（予約制）		失語症 パーキンソン病	高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病	嚥下障害 失語症	失語症 パーキンソン病
			下田	下田	井上	金藤	下田
	小児科（予約制）		発達外来 小枝	発達外来 赤星	発達外来 中野 予防接種 15:00~16:00		

◆所在地　〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地
◆電話　0857－59－1111
◆診療受付時間　午前８時３０分～午前11時３０分
◆専門外来診療時間　午後１時３０分～午後３時００分（睡眠外来の受付時間は午前中です）
◆休診日　土曜日・日曜日・祝日・年末年始、ただし、急患の方はこの限りではありません。

看護の日セレモニー

目　的：①「看護の心を・看護のすばらしさを」を多くの人に知ってもらい、関心を持ってもらう。
②　独立行政法人　国立病院機構鳥取医療センターの名前を知ってもらう。

日　時：平成18年５月13日（土）　10：00～13：00　　場　所：ケーズデンキ前
雨天の場合も実施しています。

看護の日の実施内容

1．健康相談。
体脂肪測定・血圧測定・ストレスチェック
医師・看護師・心理療法士・薬剤師・栄養士・療育指導員がご相談に応じた適切なアドバイスを行います。

2．救急絆創膏、風船を配布。

3．「看護職をめざすあなたへ」の進路相談や鳥取医療センターの職員募集を行います。看護部長・事務部長他が対応します。
是非お気軽にお立ち寄り下さい。